



月刊 (令和7年11月10日発行)

会報

2025
No. 537

11

編集・発行 一般社団法人岩手県聴覚障害者協会
〒020-0831 盛岡市三本柳13地割42番1号
FAX(019) 601-2021 TEL(019) 601-2020
E-mail:iwaterouakyoukai2007@brown.plala.or.jp

第76回東北ろうあ者大会並びに 第52回東北地区手話問題研究大会開催

～ラーメン県そば王国から手話言語コミュニケーション社会へ
はばたこう～

8月29日(金)～31日(日)、山形県山形市・山形テルサ、山形市総合福祉センターにおいて、第76回東北ろうあ者大会並びに第52回東北地区手話問題研究大会「ラーメン県そば王国から 手話言語コミュニケーション社会へはばたこう」が開かれ、東北各県から、422名の参加者が集いました。

大会式典では、基調報告、大会宣言、大会決議を掲げられ、採択されました。その他、記念講演、第1～第3分科会、老壮年研修会、女性集会、青年のつどい、交流会等、様々なイベントが催されました。次のページに報告があります。

来年の東北ろうあ者大会は、隣の秋田県で開催されます。近い秋田県での開催ですのでたくさんのご参加をお待ちします。



【記念講演】

大会式典終了後、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園教諭の戸田康之氏が「子どもたちのたくましく生きる力を育む～埼玉のろう学校での教育実践～」について記念講演がありました。

埼玉県内のろう学校では、新しい考え方を取り入れた教育研究が始まっている。その考え方とは、「デフフード」。

「デフフード」とは何かというと、簡単に言うと、聴者に合わせるのではなく、ろう者である自分があるのままでいい。無理に発語を練習したり補聴器を使用して聴力を活用したり、他者に合わせて自分を変えたり合わせたりすることなく、ろうの世界のろう文化にいたる手話を使う自分のままでいい、ということです。

全国の公立のろう学校の中で、教育目標に「デフフード」が初めて盛り込まれました。これまでのどこのろう学校にもありませんでした。

ふつう、ろう学校の教育目標というと、「残存聴力を活用して」や「発語の向上」など、聴者の社会に適應するために聴力の活用や発語の訓練をして日本語を身につけようとする内容がほとんどでした。

中学部には英語の授業があります。英語に限らず、国語、数学、社会など、授業には教科書を使います。小学部から高等部まで、どの学年にも教科書はありますが、その教科書を作っているのはろう者ではないですね。国(文部科学省)が作るものですから聴者が作るわけです。聴者が作った教科書をろう学校でも使っています。それは当然なのですが、その教科書にはろう者に関することは書かれていません。

教科書を作るのは聴者ですし、ろう者のことは全く知りませんから、仕方のないことです。どの教科の教科書も、聴者が編纂した内容をろう学校でも教えるのは当然ですが、ろう者のこと、ろうの世界やろうの歴史、ろう文化、ろうに関する情報といったものは一切載っていません。

ですから、ろうの子どもたちが特に学ぶべきことを授業に取り入れる必要があるです。先ほど挙げたろうの世界、歴史などろうの子どもたちが学ぶべきことを教科書の内容に盛り込みながら授業を行う、これが“デフフードの視点を踏まえた授業”です。その中の英語の授業を例に挙げますと、中学1年生では自己紹介の単元があります。「私/ろう(私はろうです)」と自己紹介で言いますが、この一言が英語の教科書にはありません。

『ろう』は英語で言うと『デフ:Deaf』。ですが、中学生のどの学年の教科書にも『Deaf』という単語は紹介されていません。高校の教科書にもありません。中学から高校までのどの学年の教科書にも『Deaf』という単語は載ってない(聴者が作った教科書ですから仕方ありません)。

他に自分の教え子が東京2020パラリンピックの「ろう通訳」を務めたことなどの紹介もあり、約1時間半にわたってスライドや動画を交えながらお話していただきました。

「デフフット」という言葉は聞いたことがあるが、今回の講演でより深く知ることができ、地元を広めていかねばならないと大いに痛感しました。

「第2分科会」

第2分科会「手話サークル」は、学校法人明晴学園教諭の竹村祐樹氏による講演で、テーマは「私が歩んできた人生」です。歩んできた人生や転機となった出来事、きこえない・きこえにくい人ときこえる人との手話コミュニケーションで感じるズレなどを交えてお話していただきました。

竹村祐樹氏はデフファミリー3世で、ひいおじいさん、祖父母、両親がろう者でした。4人の子ども(全員きこえる人)のパパでもあります。パワフルで、やりたいことを突き通す人生を謳歌しています。竹村氏は、壁にぶつかっても前向きな考えで、今を生きることを楽しんでいるようです。特に「明晴学園の子ども達とのふれあいが楽しい!」とっていました。

ろうの両親や兄弟、両親の周りのろう者、聾学校の先生(ろうの先生、きこえる先生)、いろいろなろう者やきこえる人に出会ってきたことは竹村氏にとって貴重な出来事だったと思います。

パワー溢れるエネルギーをもらい、自分も人生を楽しみたいと思いました。今後の活躍に期待したいです。

(一関支部 内記裕美)

「第3分科会」

8月30日(土)、11時20分頃、山形駅に着きました。戦後80年のニースが山形市図書館にあると新聞に掲載していたことを知り、ついでにタクシーで行きました。その後少し遅れて「第3分科会」へ参加し、会場後方の席になりました。岩手から2人参加でした。

- ① メンタルヘルス(金労の落ち込み)
- ② 進路、修学(休学、退学、お金がない)
- ③ 対人関係(アルバイト、家族)
- ④ 発達障害かも(就活がうまくいかない)
- ⑤ ハラスメント(指導が厳しい)

山形大学准教授の中澤末美子先生が、「皆が過ごしやすいコミュニティとは?」という講演テーマで手話やスライドなどで説明して頂きました。3時すぎから、まとめて県別の人と意見交換で各グループの発表一番長かった。

昼食抜きで交流会まで行ったので、やっと食べ始めたが、今回バイキング式でおいしいものはすぐ無くなり残念でした。次の朝は、時々ウトウトしていました。

(一般会員 川村)

「東北ろうあ者大会青年のつどいに参加して」

私は青年のつどいに参加し、前半は「全日本ろうあ連盟青年部の国際活動とは？デフリンピックに向けて国際手話を学ぼう！」というテーマで（一財）全日本ろうあ連盟青年部の中村美香氏の講演を聞き、後半はワークショップでそれぞれグループが分かれて、出されたテーマの中からどれかを選び、国際手話で発表する内容でした。私のグループのテーマは「山形の名物は何？」でした。

中村美香氏の講演は、第11回世界ろうあ連盟アジア地域青年キャンプ in インドネシアの現場の状況やアジアの人たちと交流したこと、それぞれの国の手話が異なるため、伝わらなくて悩むことはあったけど、やっと相手に通じた、相手の言いたいことが理解できた時の喜びや感動等、話していただきました。為になることが多く、勉強になりました。

後半のワークショップでは、私のグループの中に国際手話ができる人がいたのでその人に教えていただきながら、なんとか発表できました。私の国際手話での発表は「Food/Good/SAKURANBO.」でした。

国際手話できるようになりたいな…と思いつつも、これ以上はパンクしそうだから憧れくらいで国際手話通訳を頑張っている方を応援したいと思います。

1日目の夜はいつものメンバーで飲み、情報交換し、楽しかった2日間でした！

（芳賀智美）

「第20回東北ろうあ女性集会」

8月30日(土)、お天気が恵まれ山形市で開催された分科会は第20回東北ろうあ女性集会が参加者は46名でした。

講演テーマは「成人病について私たちにできることを考えましょう」。講師は国立病院機構山形病院脳神経外科部長兼手話通訳者、朽木秀雄氏に講演をいただきました。朽木氏が手話勉強を始めたのは2017年手話ボランティア養成講座、2018年手話通訳者養成講座、2019年全国手話通訳者統一試験を受け、今に至っています。2020年より日本で1か所だけの「手話外来」を病院に開設し・医者が手話で診察（手話通訳不要）・月～金曜・予約は不要・すべての病気・ほかの病院での手話通訳をしております。

生活習慣病の話聞いて喫煙、飲酒、塩分など、気をつけなければならないと思っています。診療情報提供書（紹介状）を作成してある患者さんに渡します。緊急時、災害時にかなり役に立ちます。山形の皆さんが羨ましいです。

岩手県もほしいです。また、手話通訳ができる医者が増えたらいいなあと常に思っています。

（県女性部長）

「第46回東北ろうあ老壮年研修会」

2025年8月30日(土)、午後1時～山形県山形市総合福祉センター体育ホールで東北ろうあ老壮年研修会を開催されました。

東北6県から35名の参加人数でした。(岩手から2名でした。)

第一部式典は、司会代理は私でした。歓迎のあいさつを山形県老壮年部長の実行委員長から、主催者のあいさつを、青森県老壮年部長の大釜正司郎氏(新・東北ろうあ連盟老壮年部長)から、福島県老壮年部の陰山英則氏(新・東北ろうあ連盟老壮年部会計部長)などからあいさつを行い、75才以上の高齢者15名の皆さんに記念品の贈呈を行いました。岩手から私だけ記念品を頂きました。

第二部、モルック・ボッチャ・将棋大交流会を開催されました。

初めて、モルックのルール説明をして頂いて参考になりました。小岩さんのAチームはモルックをやって、結果・1位を取って嬉しかったようでした。私のCチームは最低で、負け残念でした。でも初めてモルックをやって楽しかったです。高齢者の皆さんも楽しく交流しながら盛り上がって良かったと思います。

次年は秋田県大館市です。

(県老壮年部長)

★★★解散式にて、サプライズを行いました!★★★



みなでお祝いしましたよ～!

全国ろうあ者大会 in いわたの大会式典の場で、主管団体表彰で授賞した

◆ 実行委員会副委員長の

高橋幸子さんです(☒☉>∪<☉)。◆♡

大会終了後にお祝いも寄せることもできずにいました。長らく大変お待たせしました。

これまで陰ながら、裏仕事等を地道にパンクになる位、たくさんの準備をしていただきました。

これまでの行事・全国大会・東北大会・協会等を支えられたのも大きな成果です。

皆を支え続け、時には怒り、時には嬉しく、時には泣きたい日もあり、時には爆笑し、時には優しく穏やかな人柄と、信念が強い高橋幸子さんへ、感謝の気持ちをお伝えしました。

ザッ! おめでとうございます!

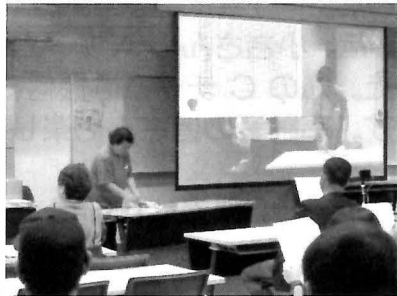
いつもありがとうございます。

パチパチ 🌸🌸

第73回全国大会解散式が終わって。



← 解散式
司会から実行委員長挨拶・事務報告



東家さんの弁当です。おいしかった。



大会期間のビデオを観ていただきました。大会前から大会終了あとの裏話をボンと報告しました。え〜、そうだったの、3時間たっぷりでした。



↑ 県青年部から感想



大会部から感想



↓ 行事対策部から感想



↑ 情報保障部から感想

↓ 資金事業部から感想



↑ 広報部から感想



↑ 事務局から報告・感想



↗ 庶務部から感想



解散を宣言し1本締めし、手を上がり無事終わりました。

はい、全員集合記念写真



青年部

2025年 9月6日(土)

🎳手話サークル青空ボウリング大会🎳

「手話サークル青空主催」「青年部合同企画ボウリング大会」



ストライクを狙え！ガターも笑い飛ばせ！
9月はみんなで投げて、笑って、景品もゲッドしちゃいましょう🎳

参加者人数；14名
場所：ラウンドワン
優勝者には景品プレゼント🎁



4グループに分かれ、たくさんストライクを取って得点を重ねながら楽しみました。ストライクが出るたびに、みんなで笑顔ハイタッチ、2ゲームでは物足りない！もっと投げたい！と思いました。
次回の企画が楽しみです。

↓優勝者は中村輝月さん！



ボウリング大会を終わった後～ボウリングを楽しんだ後に飲むキンキンに冷えたお酒が最高でした！またボウリングしたいと思いました。

第45回全国ろうあ者冬季体育大会

～ 信州かまぐらりの里雪山で輝こう技のシュプールを～

— 案内書 —

2026年2月13日(金)～15日(日)

会場：長野県飯山市戸狩温泉スキー場

長峰スポーツ公園



フクちゃん

主催 一般財団法人全日本ろうあ連盟

主管 社会福祉法人長野県聴覚障害者協会

第45回全国ろうあ者各季体育大会 in ながのの実行委員会



今年もできました！！

いわて手話カレンダー

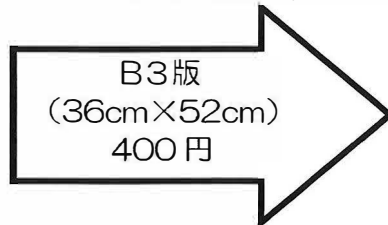
2026年版の手話カレンダー(今年も2サイズ！)

お申し込みをお待ちしています。



(大)B2版
「AIの手話表現や指文字」

(小)B3版(B2の1/2版)
両方買ってね～♪



◆ 11月 行事予定 ◆

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 (文化の日) 休所日	4	5	6	7	8
9 第47回岩手県 聴覚障害者福祉 大会 (陸前高田市)	10	11	12	13	14	15 デフリンピッ ク開会式
16	17	18	19	20	21	22
23 (勤労感謝の日)	24 (振替休日) 休所日	25	26 デフリンピ ック閉会式	27	28	29
30						

★会費等早期納入のお願い★

協会会員及び賛助会員の会費、会報の購読料について、早目の納入をお願いいたします。



11月15日から東京2025デフリンピック開会式が始まりますよね。
 役員の皆さまさらにスタッフの皆さまが、今まで準備を頑張って進めてきたことを思うと、お疲れ様と言ったかいいか、言葉を見つけられません。そして選手のみなさん。ケガしないよう頑張ってくださいね。

月 刊

購読料(年間・郵送料共) 2,500円・1部 250円
(会員の購読料は会費の中に含む)

郵便振替口座 02370-5-5814

会報 いわて

編集・発行 一般社団法人岩手県聴覚障害者協会

この会報は岩手県福祉基金の助成を受けて発行しています